

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月9日

【四半期会計期間】 第118期第2四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

【会社名】 株式会社不二家

【英訳名】 Fujiya Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 櫻井 康文

【本店の所在の場所】 東京都文京区大塚二丁目15番6号

【電話番号】 (03)5978局8430番

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 千葉 かづや

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区大塚二丁目15番6号

【電話番号】 (03)5978局8430番

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 千葉 かづや

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第117期 第2四半期 連結累計期間		第118期 第2四半期 連結累計期間		第117期	
		自 至	平成23年1月1日 平成23年6月30日	自 至	平成24年1月1日 平成24年6月30日	自 至	平成23年1月1日 平成23年12月31日
売上高	(百万円)		42,099		43,151		87,639
経常利益	(百万円)		338		538		1,816
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失()	(百万円)		46		286		544
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		26		496		590
純資産額	(百万円)		24,826		25,940		25,443
総資産額	(百万円)		47,668		49,189		53,034
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額 ()	(円)		0.18		1.11		2.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		52.0		52.3		47.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		3,888		3,888		3,661
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		1,469		1,280		2,687
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		67		458		388
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		9,091		9,345		7,187

回次		第117期 第2四半期 連結会計期間		第118期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年6月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日
1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)		0.02		1.02

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第117期及び第118期第2四半期連結累計期間については潜在株式が存在しないため、第117期第2四半期連結累計期間については1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第117期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社および連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日～6月30日)のわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要や個人消費の持ち直しが内需を支え、景気は緩やかに回復し始めました。しかしながら、当社グループが属する食品業界におきましては、消費者の節約指向に対応した低価格競争の激化や、原油高による包装材料の値上げ、物流費のコストアップが収益を圧迫し、さらに、第2四半期以降、消費者の購買意欲に低下傾向が現れるなど、経営環境は厳しい状況が続きました。

このような環境の中で、洋菓子事業におきましては、上質でお買い求めになりやすい1,000円シリーズ商品を継続的に拡販するとともに、さらなる販売増を目指し、タレントを起用した販売促進策を展開しました。また、店舗開発につきましては、新たな地域への開発を推進した結果、店舗数は前年同期に比べ増加しました。さらに、新規販路を確立すべくコンビニエンスストア向けの商品を積極的に開発、販売することにより売上の拡大を図りました。

製菓事業におきましては、バレンタインデーや母の日を中心とした催事に継続的に取り組むとともに、企業間コラボレーションや、自社ブランドを活用した商品を積極的に開発、拡販し、売上拡大に努めました。また、発売50周年を迎えた「ルック」ブランドの浸透を図るため、製菓部門のみならず、洋菓子部門や山崎製パン株式会社とも積極的にコラボレーションを行い、売上に貢献しました。

以上の結果、売上高は431億51百万円(前年同期比102.5%)となりました。

損益面では、低価格競争の激化により販売促進費は増加したものの、徹底したコスト削減と積極的な製品開発、営業活動を実行したことによる売上の増加が生産性を向上させ、おかげさまで収益は大幅に増加しました。特に、洋菓子事業における単体及び連結子会社2社(株式会社不二家フードサービス、株式会社ダロワイヨジャパン)の収益が改善し、その結果、営業利益は3億68百万円(前年同期比200.5%)、経常利益は5億38百万円(前年同期比158.8%)、四半期純利益は2億86百万円(前年同期に比べ3億33百万円の改善)となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第2四半期連結累計期間		前第2四半期連結累計期間		前年 同期比	増減
		平成24年1月1日から 平成24年6月30日まで		平成23年1月1日から 平成23年6月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
		百万円	%	百万円	%	%	百万円
洋菓子事業	洋菓子	10,161	23.6	9,874	23.4	102.9	286
	レストラン	3,297	7.6	3,138	7.5	105.1	158
	計	13,459	31.2	13,013	30.9	103.4	445
製菓事業	菓子	26,310	61.0	25,514	60.6	103.1	795
	飲料	2,679	6.2	3,025	7.2	88.6	345
	計	28,990	67.2	28,540	67.8	101.6	450
その他		701	1.6	545	1.3	128.5	155
合計		43,151	100.0	42,099	100.0	102.5	1,051

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

洋菓子チェーン店におきましては、消費者の低価格志向に対応すべく、「ミルキークリームロール」をはじめとする上質なお買い求めになりやすい1,000円シリーズ商品のさらなる拡販を目指し、タレントのローラさんを起用した販売促進策を展開しました。また、「ペコちゃんのほっぺ」などのおやつ菓子商品の販売増を目指し、「6個で500円セール(おやつ菓子プラスワンセール)」などの営業施策を積極的に展開するとともに、バレンタインデー、雛まつり、母の日などの催事に取り組み、売上の拡大に努めました。また、店舗開発につきましては、引き続きショッピングセンターなどへの出店を行うとともに、鳥取市への開発を進めた結果、当第2四半期連結会計期間末店舗数は686店舗となりました。

さらに、伸長しているコンビニエンスストアのスイーツ事業に対応した商品を積極的に開発し、市場を開拓した結果、「レーズンサブレ」などの焼菓子販売が好調に推移し、売上増加に寄与しました。

この結果、洋菓子販売の売上は前年同期を上回ることができました。

高級洋菓子を取り扱うダロワイヨは、雛まつり、お彼岸、母の日といった日本文化を取り入れた催事に対応した商品を積極的に展開し、売上増に結びつけるとともに、四角いシュークリーム「シューキュービック」など新製品の販売が好調に推移しました。さらに、郵政のカタログや東京スカイツリーへの商品提案を行なったことも売上増加に寄与し、売上は前年同期を上回ることができました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、101億61百万円(前年同期比102.9%)となりました。

レストランにおきましては、低価格競争に対応した美味しく、お得で満腹感を味わえる999円のスペシャルセットメニューを積極的に展開し、ご好評を得ております。また、ご家族の団らんのご利用いただいている「バースデーサービス」に継続的に取り組むとともに、店内製造のフレッシュ感あふれるケーキを新たに加えた「ケーキバイキング」などの営業施策が効を奏し、売上は着実に伸長しました。

この結果、レストランの売上高は、32億97百万円(前年同期比105.1%)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、134億59百万円(前年同期比103.4%)となりました。

<製菓事業>

菓子におきましては、基幹ブランドのミルクイーに新食感の「90gサクサクミルクイー」を新たに投入し、売上の拡大を図るとともに、不二家独自の技術を活かした「カントリーマアム」や「22本ポップキャンディ」の販売強化に努めました。また、バレンタインデーや母の日といった催事にも積極的に取り組み、「ハートチョコレート」を中心に拡販しました。

3月には「ルック発売50周年キャンペーン」と連動して、洋菓子部門や山崎製パン株式会社との強力なコラボレーションによる販売促進を小売店で実施したため、「12粒ルック(ア・ラ・モード)」などの「ルック」ブランド商品の売上は、前年同期を上回ることができました。さらに、コンビニエンスストア向けや駅売店など業種、業態に対応した新製品を開発、販売したことも、売上拡大に貢献しました。

在外子会社である不二家(杭州)食品有限公司につきましては、販売エリアを発展著しい内陸部へ拡大したことにより、主力商品である「ポップキャンディ」の売上がさらに好調に推移し、前年同期を上回りました。

この結果、菓子の売上高は、263億10百万円(前年同期比103.1%)となり、前年同期を上回ることができました。

飲料におきましては、販売提携先拡大により、基幹商品である「ネクターピーチ」の自動販売機での取扱いが増加しましたが、昨年においては東日本大震災の特需や猛暑による需要増があったため、その反動で売上は前年同期を下回りました。

この結果、飲料売上高は、26億79百万円(前年同期比88.6%)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、289億90百万円(前年同期比101.6%)となりました。

<その他>

主に株式会社不二家システムセンターの事務受託業務や、不動産事業のテナントからの賃貸収入及び通販・キャラクター事業部の売上により、売上高は7億1百万円(前年同期比128.5%)となりました。

なお、平成24年6月11日未明の当社埼玉工場における一部製造ラインの火災におきまして、近隣居住の皆様、株主の皆様、お取引先の皆様をはじめとする多くの方々に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。幸い、従業員をはじめとする人的被害もなく、物的被害も軽微であったことから、短期間で工場を再開させ、業績への影響を最小限に抑えることができました。今後は、グループを挙げて防災体制を見直し、再発防止に向けて万全を期してまいりますので、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は214億45百万円で、主に売掛債権やたな卸資産の減により前連結会計年度末に比べ36億14百万円減少いたしました。固定資産は277億44百万円で、主に有形固定資産や前払年金費用の減により、前連結会計年度末に比べ2億30百万円の減少となりました。

この結果、総資産は491億89百万円で前連結会計年度末に比べ38億44百万円減少いたしました。

また、流動負債は159億16百万円で、主に仕入債務や未払金の減により前連結会計年度末に比べ31億5百万円減少いたしました。固定負債は73億32百万円で、主に長期借入金や長期未払金の減により前連結会計年度末に比べ12億35百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計232億49百万円で、前連結会計年度末に比べ43億41百万円減少いたしました。

純資産は259億40百万円で、主に四半期純利益の計上により前連結会計年度末に比べ4億96百万円増加いたしました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、38億88百万円となりました。これは主に売上債権の減少やたな卸資産の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、12億80百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、4億58百万円となりました。これは主に借入金の返済によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、93億45百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、165百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間におきまして、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はございません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	257,846,590	257,846,590	東京証券取引所 市 場第一部	単元株式数 1,000株
計	257,846,590	257,846,590		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年6月30日		257,846,590		18,280		3,859

(6) 【大株主の状況】

平成24年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
山崎製パン株式会社	東京都千代田区岩本町三丁目10番1号	136,902	53.09
不二家不二栄会持株会	東京都文京区大塚二丁目15番6号	6,076	2.36
株式会社バンダイナムコ ホールディングス	東京都品川区東品川四丁目5番15号	5,000	1.94
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	3,022	1.17
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,001	1.16
藤井林太郎	東京都渋谷区	2,024	0.79
株式会社アサツーディ・ケイ	東京都中央区築地一丁目13番1号	2,000	0.78
日本マスタートラスト信託 銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,468	0.57
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	1,381	0.54
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	978	0.38
計		161,853	62.77

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 67,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 25,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 257,513,000	257,513	同上
単元未満株式	普通株式241,590		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	257,846,590		
総株主の議決権		257,513	

(注) 1 「単元未満株式」欄には自己株式984株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」の株式数の欄には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数8個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社不二家	東京都文京区大塚二丁目 15番6号	67,000		67,000	0.03
(相互保有株式) 日本食材株式会社	埼玉県さいたま市中央区 本町西六丁目4番22号	25,000		25,000	0.01
計		92,000		92,000	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,331	9,429
受取手形及び売掛金	2 12,280	2 7,527
商品及び製品	3,068	2,392
仕掛品	291	303
原材料及び貯蔵品	1,797	1,392
繰延税金資産	31	32
その他	618	696
貸倒引当金	359	329
流動資産合計	25,060	21,445
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,595	6,583
機械装置及び運搬具（純額）	6,246	5,963
土地	2,847	2,847
リース資産（純額）	1,586	1,472
その他（純額）	637	946
有形固定資産合計	17,913	17,814
無形固定資産	320	290
投資その他の資産		
投資有価証券	6,031	6,141
繰延税金資産	48	48
敷金及び保証金	2,222	2,220
前払年金費用	1,117	904
その他	535	544
貸倒引当金	213	220
投資その他の資産合計	9,740	9,639
固定資産合計	27,974	27,744
資産合計	53,034	49,189

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,296	4,547
短期借入金	4,404	4,793
1年内償還予定の社債	354	354
リース債務	396	405
未払金	4,666	3,199
未払法人税等	286	182
賞与引当金	254	275
店舗閉鎖損失引当金	12	12
その他	2,349	2,145
流動負債合計	19,022	15,916
固定負債		
社債	1,333	1,156
長期借入金	2,277	1,837
リース債務	1,339	1,215
退職給付引当金	1,485	1,376
負ののれん	1	0
長期未払金	1,641	1,270
その他	489	475
固定負債合計	8,568	7,332
負債合計	27,590	23,249
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	5,070	4,065
利益剰余金	2,196	3,487
自己株式	14	14
株主資本合計	25,531	25,818
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	178	84
繰延ヘッジ損益	4	2
為替換算調整勘定	34	7
その他の包括利益累計額合計	217	94
少数株主持分	129	216
純資産合計	25,443	25,940
負債純資産合計	53,034	49,189

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	42,099	43,151
売上原価	23,009	23,091
売上総利益	19,090	20,059
販売費及び一般管理費	18,906	19,691
営業利益	183	368
営業外収益		
受取利息	7	8
受取配当金	21	20
持分法による投資利益	125	149
その他	91	84
営業外収益合計	246	263
営業外費用		
支払利息	60	58
その他	30	34
営業外費用合計	90	93
経常利益	338	538
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	6	-
保険差益	-	78
その他	-	0
特別利益合計	6	79
特別損失		
固定資産廃棄損	40	112
貸倒引当金繰入額	8	-
災害損失	169	-
その他	6	0
特別損失合計	224	112
税金等調整前四半期純利益	121	504
法人税、住民税及び事業税	140	142
法人税等調整額	11	0
法人税等合計	128	142
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	7	362
少数株主利益	39	76
四半期純利益又は四半期純損失()	46	286

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	7	362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	92
為替換算調整勘定	9	37
持分法適用会社に対する持分相当額	9	4
その他の包括利益合計	18	133
四半期包括利益	26	496
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	68	409
少数株主に係る四半期包括利益	42	86

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	121	504
減価償却費	1,583	1,489
持分法による投資損益(は益)	125	149
災害損失	169	-
売上債権の増減額(は増加)	5,070	4,731
たな卸資産の増減額(は増加)	759	1,077
仕入債務の増減額(は減少)	1,650	1,757
未払金の増減額(は減少)	1,614	1,400
その他	428	512
小計	3,884	3,982
利息及び配当金の受取額	230	204
利息の支払額	62	60
法人税等の支払額	94	237
災害損失の支払額	69	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,888	3,888
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	76	1
定期預金の払戻による収入	150	63
投資有価証券の取得による支出	3	32
固定資産の取得による支出	1,585	1,321
固定資産の売却による収入	16	4
その他	30	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,469	1,280
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	34	260
長期借入れによる収入	1,216	-
長期借入金の返済による支出	768	310
社債の償還による支出	177	177
割賦債務の返済による支出	28	27
リース債務の返済による支出	208	203
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	67	458
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	8
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,488	2,158
現金及び現金同等物の期首残高	6,517	7,187
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,091	9,345

【追加情報】

<p>当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)</p>
<p>第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 年12月31日)	(平成23)	当第2四半期連結会計期間 日)	(平成24年6月30
<p>1 保証債務</p> <p>連結会社以外の関係会社の金融機関の借入金に対する保証</p> <p>(株)ユトリア不二家 25百万円</p> <p>計 25</p> <p>取引先の営業債務に対する保証</p> <p>(株)ジェフグルメカード 30百万円</p> <p>計 30</p> <p>2 期末日満期手形等の処理</p> <p>期末日満期手形の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>また、債権の一部については、手形と同様の期日条件で現金決済する方式を用いております。</p> <p>当連結会計年度は期末日が金融機関休業日のため、期末日満期手形及び期末日債権の一部が期末残高に含まれております。</p> <p>その主なものは次のとおりであります。</p> <p>受取手形 9百万円</p> <p>売掛金 1,129</p> <p>計 1,139</p>		<p>1 保証債務</p> <p>連結会社以外の関係会社の金融機関の借入金に対する保証</p> <p>(株)ユトリア不二家 21百万円</p> <p>計 21</p> <p>取引先の営業債務に対する保証</p> <p>(株)ジェフグルメカード 30百万円</p> <p>計 30</p> <p>2 四半期連結会計期間末日満期手形等の処理</p> <p>四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>また、債権の一部については、手形と同様の期日条件で現金決済する方式を用いております。</p> <p>当第2四半期連結会計期間末日が金融機関休業日のため、四半期連結会計期間末日満期手形及び期日債権の一部が当第2四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <p>その主なものは次のとおりであります。</p> <p>受取手形 11百万円</p> <p>売掛金 779</p> <p>計 790</p>	

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)																																				
<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 運賃及び倉庫料</td> <td style="text-align: right;">2,378百万円</td> </tr> <tr> <td>2 販売促進費</td> <td style="text-align: right;">7,458</td> </tr> <tr> <td>3 広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">697</td> </tr> <tr> <td>4 水道光熱費</td> <td style="text-align: right;">239</td> </tr> <tr> <td>5 地代家賃</td> <td style="text-align: right;">1,178</td> </tr> <tr> <td>6 給料及び手当</td> <td style="text-align: right;">3,325</td> </tr> <tr> <td>7 賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">146</td> </tr> <tr> <td>8 退職給付引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">314</td> </tr> <tr> <td>9 委託業務費</td> <td style="text-align: right;">581</td> </tr> </table>	1 運賃及び倉庫料	2,378百万円	2 販売促進費	7,458	3 広告宣伝費	697	4 水道光熱費	239	5 地代家賃	1,178	6 給料及び手当	3,325	7 賞与引当金繰入額	146	8 退職給付引当金繰入額	314	9 委託業務費	581	<p>1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 運賃及び倉庫料</td> <td style="text-align: right;">2,417百万円</td> </tr> <tr> <td>2 販売促進費</td> <td style="text-align: right;">7,999</td> </tr> <tr> <td>3 広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">765</td> </tr> <tr> <td>4 水道光熱費</td> <td style="text-align: right;">264</td> </tr> <tr> <td>5 地代家賃</td> <td style="text-align: right;">1,169</td> </tr> <tr> <td>6 給料及び手当</td> <td style="text-align: right;">3,471</td> </tr> <tr> <td>7 賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">152</td> </tr> <tr> <td>8 退職給付引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">253</td> </tr> <tr> <td>9 委託業務費</td> <td style="text-align: right;">563</td> </tr> </table>	1 運賃及び倉庫料	2,417百万円	2 販売促進費	7,999	3 広告宣伝費	765	4 水道光熱費	264	5 地代家賃	1,169	6 給料及び手当	3,471	7 賞与引当金繰入額	152	8 退職給付引当金繰入額	253	9 委託業務費	563
1 運賃及び倉庫料	2,378百万円																																				
2 販売促進費	7,458																																				
3 広告宣伝費	697																																				
4 水道光熱費	239																																				
5 地代家賃	1,178																																				
6 給料及び手当	3,325																																				
7 賞与引当金繰入額	146																																				
8 退職給付引当金繰入額	314																																				
9 委託業務費	581																																				
1 運賃及び倉庫料	2,417百万円																																				
2 販売促進費	7,999																																				
3 広告宣伝費	765																																				
4 水道光熱費	264																																				
5 地代家賃	1,169																																				
6 給料及び手当	3,471																																				
7 賞与引当金繰入額	152																																				
8 退職給付引当金繰入額	253																																				
9 委託業務費	563																																				

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目との関係 (百万円)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目との関係 (百万円)
現金及び預金勘定	9,223
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	132
現金及び現金同等物	9,091
	現金及び預金勘定
	9,429
	預入期間が3ヶ月を超える定期預金
	84
	現金及び現金同等物
	9,345

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,013	28,540	41,554	545	42,099	-	42,099
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	285	285	335	621	621	-
計	13,013	28,825	41,839	881	42,721	621	42,099
セグメント損益(は損失)	548	1,764	1,216	92	1,308	1,125	183

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(は損失)の調整額 1,125百万円には、固定資産減価償却費の調整額 9百万円、その他の調整額13百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,148百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,459	28,990	42,449	701	43,151		43,151
セグメント間の内部売上高 又は振替高		302	302	321	624	624	-
計	13,459	29,293	42,752	1,023	43,775	624	43,151
セグメント損益(は損失)	206	1,641	1,434	102	1,537	1,169	368

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(は損失)の調整額 1,169百万円には、固定資産減価償却費の調整額 9百万円、その他の調整額 2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,181百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	0円18銭	1円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失()(百万円)	46	286
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	46	286
普通株式の期中平均株式数(千株)	257,766	257,766

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については潜在株式が存在していないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純損失金額については四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 9日

株式会社不二家
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川 井 克 之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	薬 袋 政 彦	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	島 村 哲	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社不二家の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社不二家及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。